

## 社員のキャリア自律向上に寄り添うシステム —全社員全世代展開型セルフ・キャリアドックの実践—

キャリアコンサルタント 株式会社山田製作所 : 星野和彦氏

### セルフ・キャリアドックが生み出す好循環サイクル

今回、我々が行っているヤマダ式セルフ・キャリアドックを簡単に説明します。

厚生労働省が 2017 年に発表している指針の中にあるのですが、

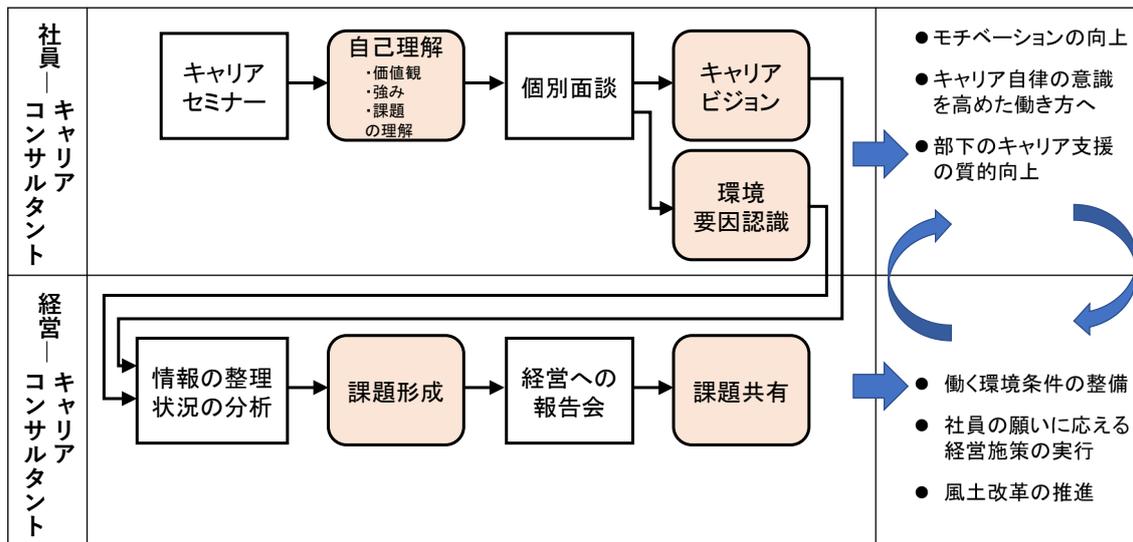
「セルフ・キャリアドックとは、  
企業がその人材育成ビジョン・方針に基づき、  
キャリアコンサルティング面談と  
多様なキャリア研修などを組み合わせて、  
体系的・定期的に従業員の支援を実施し、  
従業員の主体的なキャリア形成を促進・支援すること  
を目的とした総合的な取り組み、または企業内の仕組みである。」

とセルフ・キャリアドックについて謳っています。

そのセルフ・キャリアドックを山田製作所としては、弊社なりに行っているということを今回はお話して  
いきたいと思えます。

セルフ・キャリアドックが生み出す好循環サイクルを下図にまとめてみました。

### セルフ・キャリアドックが生み出す好循環サイクル



最初に、従業員に対してキャリアとはこういうことなんだということを知ってもらうために、セミナーを行っております。従業員がキャリアについて、キャリアという言葉のイメージから誤解をしている人が多く、その言葉の意味を正しく理解する必要があります。キャリアセミナーでは、その人の価値観、強み、弱み、課題などを通じて自分自身を知ってもらい、まずは自己理解してもらいます。それを受けて、今度はセミナーを受けた 1 人 1 人の個別面談、フォローアップ面談と呼んでいますが、そちらを実施しております。

そうすることによって、個々が、年代別にはあるんですけども、自分が描くキャリアビジョンというのを作成して、そのキャリアビジョンに向けてどうしていこうかということ、支援していくのが我々の役目になっております。また、そのキャリアビジョンの見つけ方です。自分でなかなかキャリアが描けないと思っている方に対して、その人の強みですとか価値観ですとかをお互いに共有した上で、こういうこともできるよねっということを感じさせる、そういう役目があると思います。

それによって、セルフ・キャリアドックを受けた従業員については、少なくとも、モチベーションの向上だとか、キャリア自律の意識を高めた働き方、ということが芽生えてくるというような効果が期待されます。

我々キャリアカウンセラー、キャリアアドバイザーとしましては、それを受けまして、その情報を実際に、例えば、キャリアを個々の社員が、キャリアについてこういうようなことを描きたい、こういう風にやりたい、それが会社にとっても、いいだろうと思われるようなことがありますので、情報の整理・分析をした上で、何が今、それについては1番の問題なのか、組織の問題か、会社の問題がありますので、それをある時期に経営陣へ報告して課題の共有ということを行っていきます。図には経営の報告と書いてありますけれども、単位としましては、もっと直近の課長さんに対しての報告であったりします。例えば、部下がこういうような思いでやっているんだけどもといっても、なかなか課長さんも気づかなかつたりという場面も多いと思いますので、そういうような報告をしたりします。

またある程度の期間でまとまりますと、会社全体の今の動きということで、経営トップを含めた経営陣の方に今の課題も含めて、共有をさせていただきます。

それを行うことによって、その課題にどう答えるか、どういうふうに企業風土を変えようか、どういうふうに変えていこうかというのは、また、その判断になりますけども、それを行うことによって、社員1人1人が、自分の描くキャリアについても言うことによって、あるいは行動することによって、少しは変わってきたんだなというような実感を持てる。そういうような好循環がもたらせるようになればいいかなと思っています。

先ほど少し触れましたが、分析して報告することで1番注意しなくてはならないことは、やはり、守秘義務です。部下といえども、本人の許可なしで誰々がこう言ったということは絶対に言わないことになっております。本人が良いという場合には、言うこともあります。社内ではそこについてはこういう傾向があるのかというような形での報告になります。

これはコンプライアンス上あってはならないことですが、例えば、問題だなというようなことを知り得た場合については、本人の許可を取った上で、それなりのところに持ち上げて対処する、というような行動を取る場合もあります。

これが「セルフ・キャリアドックが生み出す好循環」でありますけれども、これについては本人のキャリアだけでなく、従業員との個別面談で1時間から1時間半の時間持てますので、その時の悩みですとか、普段思っている気持ち等を聞きたい機会にもなっていると思います。